

「洗礼者ヨハネの懷疑」

2015年06月13日

ルカによる福音書 7章18節～22節。ヨハネの弟子たちが、これらすべてのことについてヨハネに知らせた。そこで、ヨハネは弟子の中から二人を呼んで、主のもとに送り、こう言わせた。「来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか。」二人はイエスのもとに来て言った。「わたしたちは洗礼者ヨハネからの使いの者ですが、『来るべき方は、あなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか』とお尋ねするようにとのことです。」そのとき、イエスは病気や苦しみや悪霊に悩んでいる多くの人々をいやし、大勢の盲人を見えるようにしておられた。それで、二人にこうお答えになった。「行って、見聞きしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている。

ヨハネはエルサレム神殿の祭司ザカリアとエリサベトの間に生まれた一人息子であった。当然、祭司になるべき人であったが、エルサレム神殿の墮落を知るヨハネは神殿からは真実は起こり得ないと神殿を捨て、イスラエル人の信仰の原点である荒野に立った。そして、禁欲的な生活の中から、愛と正義を生きるように悔い改めの洗礼を激しく迫った。ヨハネの宣教に感動した人々は続々とヨハネから洗礼を受け、大宗教運動に広がった。尊敬を集めたヨハネはメシア（キリスト）ではないかと期待されたが、私はメシアではなく、自然の水で洗礼を受ける人間である、後から、聖霊と火で洗礼を受ける方が来られる、私はその方の履物の紐を解く値打ちもない者であるとメシアの到来を預言した。

主イエスはヨハネから洗礼を受けられた。その時、聖霊が降り「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声が天から響いた。ヨハネは、主イエスの歩まれる道備えをし、主イエスをメシアとして指差した旧約聖書最後の預言者であった。

そのヨハネは、領主ヘロデが兄の妻ヘロディアと結婚したことに対し、律法に反する罪であると抗議した。一介の野にあるラビ（宗教家）の抗議に怒ったヘロデはヨハネを投獄した。ヨハネは過酷な獄中生活の中で、主イエスを見失った。人は苦難の極致で見えなくなる。ヨハネもそうだったと聖書は伝えている。二人の弟子を遣わし「来るべき方（メシア）はあなたでしょうか。それとも、ほかの方を待たなければなりませんか」と問わせた。

ヨハネのことを思うと、心が熱くなる。ヨハネほど真っ直ぐに神に向き合い、真実を生きた人はないと思うからである。しかし、そのヨハネも苦しい獄中で信仰を見失い、主イエスに対して懷疑を抱いた。信仰は懷疑を媒介にして成長することは確かである。懷疑なき信仰は一人よがり、無実体である。ヨハネの懷疑は狂おしいものであっただろう。ヨハネに対し、失礼ながら人間的に親しみを覚える。

主イエスは二人の弟子に「行って、見聞きしたことをヨハネに伝えなさい」と言い、「目の見えない人は見え、足の不自由な人は歩き、重い皮膚病を患っている人は清くなり、耳の聞こえない人は聞こえ、死者は生き返り、貧しい人は福音を告げ知らされている」と告げた。主イエスの到来によって、目が開かれ、自分の足で歩き、重い皮膚病はいやされ、耳が聞こえ、死者は生き返り、貧しい者は喜びの福音を聞く。生ける神と結びつき真の解放がもたらされた。私たちは現実がどんなに破れていようとも、主イエスの恵みと祝福の中に置かれている。これを信じ、望んで生きていくのである。（続く）